

エージングに配慮した素材とデザイン（協議会資料と同じものです）

■環境共生、環境保全、環境負荷に配慮したエージング
（エージング＝時間の経過に伴って素材が趣を深めること）

グランドプランの中でも頻繁に取り上げられている「環境共生、環境保全、環境負荷」等に対して、整備計画で最も注意を払うべきことは、海岸の過酷な環境や、本来の美しい景観への配慮であると考えています。

自然が生み出す過酷な環境に対応した「エージング＝時間を経る毎に趣を深める」に配慮した景観誘導や施設計画が必要であると考えています。エージングに配慮した素材とデザインを見つけ出すことは、施設の景観的な耐久性を高めます。

■耐久性が高く時間を経るごとに趣を深める景観構成要素を選ぶ。

南西の卓越風が運ぶ飛砂、台風が運ぶ潮飛沫、強い紫外線、茅ヶ崎海岸特有の気候風土は、全てに対して過酷な環境をつくっています。一方で過度な施設更新は自然環境に対して負担となり、過度な補修管理は施設維持の負担となり、化学的に生成された耐候性は景観的に違和感をつくります。

海岸の環境や景観に本来は存在しない建築物や公園施設は、海岸の環境や景観との調和に最大限の配慮を行う必要があります。建築物の景観誘導や公園施設の施設計画では、過酷な環境に耐えらるとともに、時間を経る毎に趣を深める素材・仕上げを使用することが大切です。また、簡素で壊れにくいシンプルな構造や、流行りすたりの少ないデザインの耐久性を高めることなども、大切であると考えています。



街中でよく見かけるモルタルの塗り壁は、表面劣化が激しい。当初の光沢も薄れて多くのヒビ割れや汚れが生じる。



街中でよく見かけるブロック塀は、表面がやわらかいため飛砂により削りとられる。内部の鉄筋が錆で強度不足となる。



一般的な御影石を使ったよう壁。御影石は耐久性が高く表面劣化や、飛砂にも耐久性が高い。表面を平滑にした例。目地にたまった汚れが水道だけを汚すため、美しさを保つには有る程度の清掃が必要。



同上。表面を割り肌にすると、汚れが目立ちにくくなり、上記の耐久性にプラスしてメンテナンス負担も低くなる。



江の島～三浦半島産の石（佐島石系統）御影石に比較するとやわらかいため、耐久性はやや劣るが、地域の自然素材であるため、ほぼメンテナンスフリーで環境との調和を持続できる。

低い

（管理しない場合の）景観的な素材の耐久性

高い